

きょうつまで春日井でサミット

サボテンの将来考える



サボテン産業を発展させるために議論を交わす出演者たち＝春日井市の春日井商工会議所で

紀助教やサボテン農家、市職員ら五人がそれぞれの立場から話し合った。

「少し高くても手に取ってもらえるような付加価値の高い商品をつくるべきではないか」「新たなことより、既存のイベントにもっと参加することが現実的」など、さまざまな観点からサボテンの未来を探った。

春日井市の特産品、サボテンを語る「春日井サボテンサミット」(中日新聞社後援)が五日、市内の春日井商工会議所で始まった。六日まで。商議所内の春日井サ

ボテンプロジェクトのメンバーらでつくる実行委員会が主催した。今後十年の取り組みを考えるパネルディスカッションでは、サボテンを研究する中部大応用生物学部の堀部貴

の一人で、サボテンの栽培や活用を学ぶ中部三年の大野純輝さん(二〇)は「同じ目標を持つている人の多さに驚いた。全国的に春日井

全・サービス。協定では、

高齢者の見守りへ協定

春日井市 中日本高速のセンターと



協定を締結した伊藤市長(手前右から2人目)と中日本高速道路の関係者＝春日井市役所で(市提供)

春日井市は五日、中日本高速道路名古屋支社の三保全・サービスセンターと「地域見守り活動に関する協定」を結んだ。

締結したのは、市内を通る高速道路を管理する名古屋(名古屋市中心東区)と多治見(岐阜県多治見市)、羽島(同県羽島市)の三保

市役所であった。式では、各センター長が伊藤太市長書を交わした。長は「市内は高齢者が充実し、人の広域化しているをお願ひしました。